

# 日光市環境基本計画重点プロジェクト

## 平成27年度実施状況報告書

日光市



### 目次

1	はじめに	1
2	平成27年度プロジェクト別実施状況	1
	（1）光の環プロジェクト	2
	（2）水の環プロジェクト	7
	（3）資源の環プロジェクト	11
	（4）環境にっこの輪プロジェクト	16
3	今後の取り組み	20

## 1 はじめに

日光市は、日光国立公園に代表される優れた自然環境・自然景観や多彩な温泉資源、貴重な歴史文化遺産など、世界的に誇れる環境資源を有しています。

この環境を守り、未来に引き継いでいくために、事業者や滞在者を含む住民一人ひとりが、環境負荷の少ない暮らし方に取り組むとともに、資源・エネルギーの有効活用を進める必要があります。こうした環境の保全と創造に関する施策を推進するため、市では平成21年度に「日光市環境基本計画」を策定し、また、平成22年度には「日光市環境基本条例」を制定しました。

条例において、毎年度、施策の実施状況を明らかにすると規定しており、これに基づき、日光市環境基本計画のなかで特に「重点プロジェクト」として掲げている事項について、本書により実施状況を報告するものです。

## 2 平成27年度プロジェクト別実施状況

重点プロジェクトは4分野から構成されます。平成22年度から平成26年度までのファーストステップ期間（第1段階）を経て、平成27年度からはセカンドステップ期間（第2段階）に入りました。推進する項目は全部で48項目あり、実施状況は、「完了」が1項目、「実施」が41項目、「検討中」が2項目、「未着手」が4項目となっています。内訳は下表のとおりです。

※ ファーストステップ：平成22年度～平成26年度

セカンドステップ：平成27年度～平成31年度

	平成27年度 セカンドステップ実施状況			
	完了	実施	検討中	未着手
光の環プロジェクト	0	9	1	0
水の環プロジェクト	1	11	0	0
資源の環プロジェクト	0	12	1	1
環境にっこの輪プロジェクト	0	9	0	3
計	1	40	2	5

(1) 光の環プロジェクト 地球温暖化防止への貢献 ～低炭素社会づくりに向けて～

プロジェクトの目標

市民・市民団体・事業者・滞在者それぞれが、省資源・省エネルギーに取り組み、また、再生可能エネルギーの利用を促進することで、温室効果ガス排出量を削減し地球温暖化防止へ貢献する。

○指標 ※セカンドステップ初年度のため、比較として平成26年度の値を記載しています。

地球にやさしい行動推進(エコライフ・省資源)

現状値\* 特に年度記載がない場合は、平成20年度値を採用しています。以降、いずれのプロジェクトも同様です。

1) 地球温暖化防止運動への参加

指標名	現状値*	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1."とちぎ発"ストップ温暖化アクション(栃木県事業)への参加者	9,901	人			23年度から県事業の内容と集計方法が変更され、参加者数を指標として比較することが適当でなくなったため、比較を見合わせます。			20,000
2.ライトダウンキャンペーン参加団体	19	団体	10	6				250

2) 地球温暖化防止に関する環境学習の推進

指標名	現状値*	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.地球温暖化防止学習会の開催	6	回	0	1				10
	293	人	0	57				500

温室効果ガス排出量の削減

3) 日光市役所環境配慮率先行動計画の推進

指標名	現状値*	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.市施設の温室効果ガス排出削減	(H19年度) 21,980 注1)	t	18,800	18,458				18,683 (15%削減)
2.低公害車(庁用車)保有台数	注2) 7	台	35	35				
	1.4	%	7.5	7.5				10%

注1) 平成25年度日光市役所環境配慮率先行動計画点検結果報告書の数値見直しに合わせ、平成19年度の値を修正しています。これに伴い最終平成31年度の15%削減の目標トン数も修正しています。

注2) 総合計画の成果指標のカウント方法に合わせ、特殊車両として水素燃料自動車及び電気自動車を含んだ値に修正しています。

4) 低炭素社会への取り組み

指標名	現状値*	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.市全域からの温室効果ガス排出削減	(H18年度) 676,853	t	744,193					609,168 (10%削減)

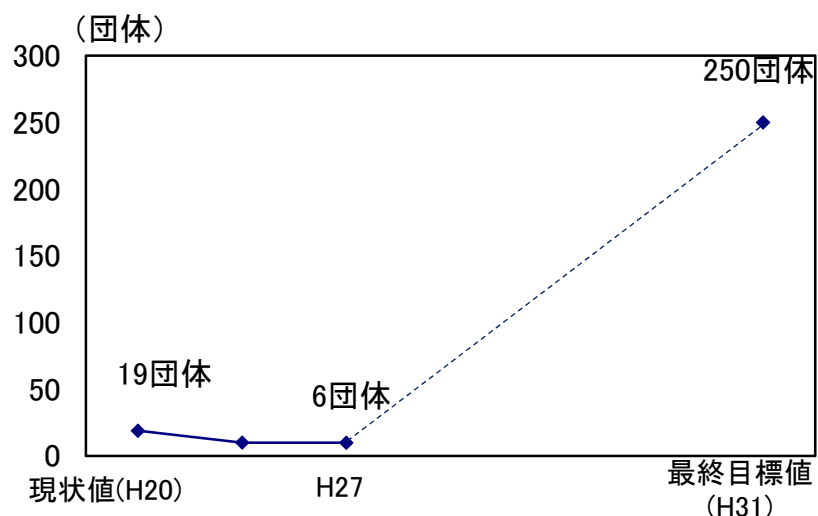
国のデータ公開時期の都合により、現時点で1年度前までしか算定できません。

再生可能エネルギー利用の推進

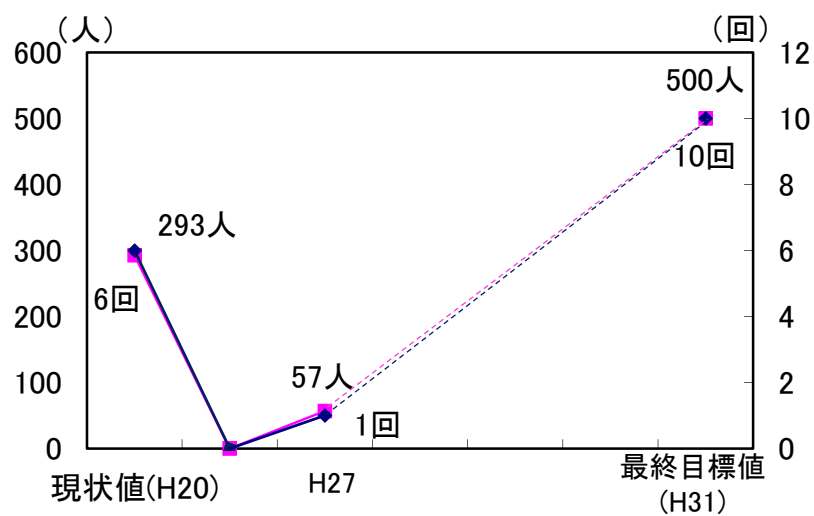
5) 太陽光発電システムの導入促進

指標名	現状値*	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.住宅用太陽光発電システム設置補助数(累計)	111	件	1,030	1,146				1,255
2.市施設への太陽光発電システムの導入(累計)	1	施設	6	7				12
	100	kW	284	299				300

【指標名】1-2. ライトダウンキャンペーン参加団体

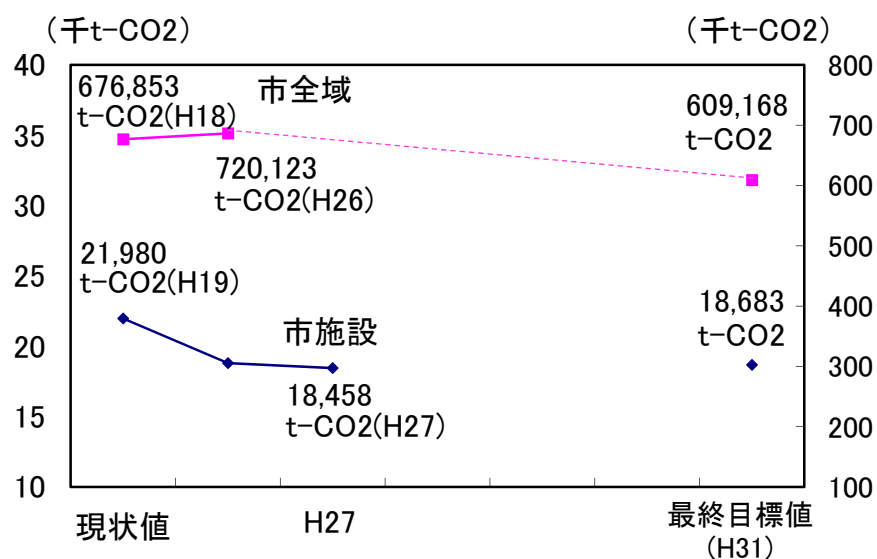


【指標名】2-1. 地球温暖化防止学習会の開催

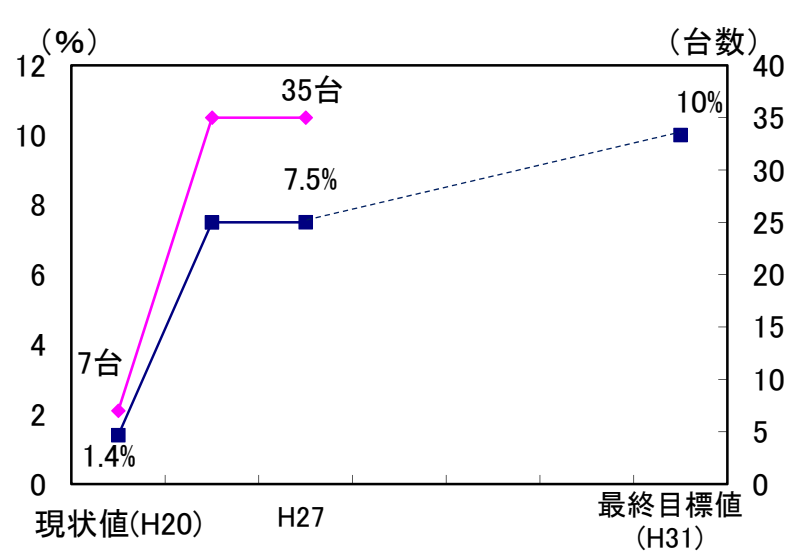


【指標】3-1. 市施設の温室効果ガス排出削減

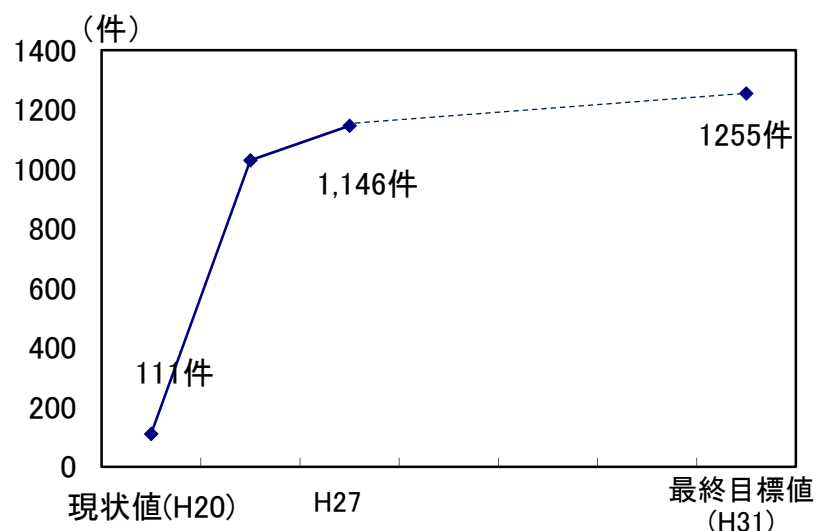
4-1. 市全域からの温室効果ガス排出削減



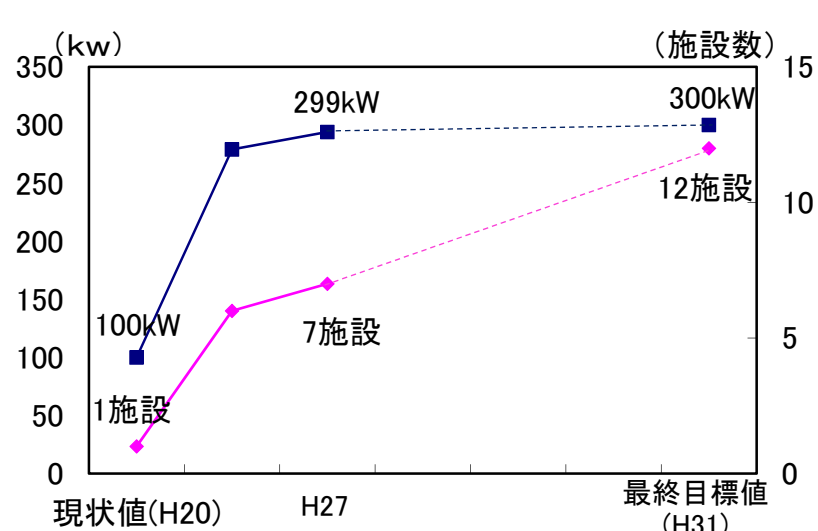
【指標名】3-2. 低公害車（庁用車）保有台数



【指標名】5-1. 住宅用太陽光発電システム設置補助数（累計）



【指標名】5-2. 市施設への太陽光発電システムの導入（累計）



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

概ね順調に成果が上がっており、特に「3-2. 低公害車（庁用車）保有台数」「5-1.住宅用太陽光発電システム設置補助数」の指標が良好となっています。ただし、次の3指標については低い数値となっています。

- ・「1-2. ライトダウンキャンペーン参加団体」

事業所等における日頃の節電意識は高いと考えられますが、ライトダウンキャン

ペーンへの参加団体数は伸びなやんでいます。登録・参加について、商工部門と連携して、事業所等に積極的な呼びかけを行っていきます。

・「2-1. 地球温暖化防止学習会の開催」

出前講座の要望が少ない状況にあります。栃木県立今市工業高等学校との学官連携に基づく出前講座など講座メニューの充実を図りました。また、県等と協力して地球温暖化防止活動にも積極的に参加します。

・「4-1. 市全域からの温室効果ガス排出削減」

景気の動向や気象により、排出量が大きく左右されます。国の温室効果ガス対策に注目しながら、市・市民・事業者等それぞれが取り組めることを検討します。

○プロジェクト項目別実施状況

[セカンドステップ]

No	項目	進捗及び平成 27 年度実施内容				
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
1201	環境家計簿など日常的な環境配慮（行動）の実践 温室効果ガス排出削減	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
<p>民生家庭部門では、ファーストステップで実施してきた「緑のカーテン」、「家庭エコプログラム・うちエココンテスト」、「ライトダウンキャンペーン」など温暖化対策事業を引き続き実施し、日常において温室効果ガス排出削減に取り組みました。</p> <p>環境家計簿は、市のホームページで紹介し、表計算ツールがダウンロードできるようにしています。</p>						
1202	太陽光発電（住宅用太陽光発電設置補助、公共施設への太陽光発電施設設置）の推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
<p>平成 27 年度の住宅用太陽光発電の設置補助実績は、116 件（13,448 千円）で、前年度より減少しました。</p> <p>また、市の施設における設置状況は、次のとおりです。</p> <p>【瀬尾浄水場】H13～, 100kW  【リサイクルセンター】H22～, 4kW  【湯西川水処理センター】H23～, 50kW  【かたくりの湯】H23～, 100kW  【足尾総合支所】H25～, 20kW  【日光消防署】H26～, 10kW  【藤原消防署】H27～, 15kW</p> <p>なお、平成 23 年度に策定した「日光市庁舎整備指針」の中で、今後整備する総合支所等庁舎には、太陽光発電設備を設置することを定めています。平成 28 年度には、落合地区センター、大沢地区センター、塩野室地区センター及び湯西川地区センターにそれぞれ太陽光発電設備 10kW を設置する予定です。</p>						
1203	その他再生可能エネルギー利用の検討	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
<p>東日本大震災に伴う原発事故以降、再生可能エネルギーへの関心が高まり、全国的に再生可能エネルギーの普及が進んでいます。市においても平成 26 年 11 月に「日光市再生可能エネルギー推進基本方針」を策定し、特に太陽光、小水力、バイオマス、温泉熱利用の普及啓発を図ることとしています。</p> <p>また、平成 28 年 3 月には、栃木県立今市工業高等学校と関連 2 社との相互協力のもと再生可能エネルギーの普及促進を図</p>						



		ることを目的に、学産官連携に係る協定書を締結しました。				
No	項目	進捗及び平成 27 年度実施内容				
1204	地域新エネルギービジョンの推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		検討中				
		温泉の排湯の熱を冷暖房に活用するなど、地域の特性を活かした新しいエネルギー活用を目指します。				
1205	低公害車（エコカー）の普及・拡大	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		平成 27 年度は、住宅用の自動車用充電コンセント工事補助を実施し、民間主体での充電インフラの普及・拡大を図りました。 このほか、エコカー普及のため、市が率先して庁用車に EV を導入しています。				
1206	住宅用高効率給湯器設置費補助など省エネルギー機器補助制度の検討	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		市民の省エネルギー意識が非常に高まっていますが、現在の市民ニーズの中心は、住宅用太陽光発電設備であり、これに重点をおいた施策を進めてきましたが、国、県等のエネルギー施策を踏まえ、幅広い支援・対応を検討します。				
1207	CO <sub>2</sub> 吸収源としての森林整備、森林対策の検討	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		森林路網（林道）の整備を 10 路線、シカ、イノシシによる森林被害軽減対策として捕獲促進事業（捕獲個体に対する報償金の支払等）によりシカ 3,002 頭、イノシシ 282 頭の捕獲、日光木材の利用促進として市内に木造住宅を新築する方 25 軒へ建築用木材の一部を支給、日光市森林整備計画に基づく除間伐 60.58 ha に対する支援等の事業を実施し、森林環境の健全化を図りました。				
1208	市役所の温室効果ガス排出削減	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		平成 22 年度から実施している「日光市役所環境配慮率先行動計画」に基づき、市役所からの温室効果ガス排出を削減しています（詳しくは後出「日光市役所環境配慮率先行動計画の推進」参照）。				
1209	日光市職員エコアクション運動の実践	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		「エコ通勤統一行動（年 2 回）」を市職員に周知し、平成 27 年度は 6 月 17 日及び 10 月 14 日に実施しました。エコ通勤実施率は、それぞれ通常時 7% のところ、行動日は 21%、20% という結果となりました。行動日の取組意識は比較的高く、今後も周知を徹底して、更なる実施率の向上と、通常時の底上げを目指します。				

No	項目	進捗及び平成 27 年度実施内容				
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
1210	日光市役所環境配慮率先行動計画の推進	実施				
		<p>平成 27 年度の CO<sub>2</sub> 排出量は 18,458 t-CO<sub>2</sub> であり、基準年度である平成 19 年度の排出量 21,980 t-CO<sub>2</sub> に比べ、16.0% の削減となっています。節電の定着・エコカーの普及などによる削減効果が表れています。</p> <p>環境基本計画では平成 31 年度に 15% 削減という長期目標を掲げており、安定して達成できるように更なる削減を目指します。</p>				

(2) 水の環プロジェクト 水環境の保全と活用 ～水の循環を活かしたまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

良好な水環境を保全しながら、保全活動を通じての交流を活発化するとともに、水環境の情報発信を図るなど、豊かな水資源を有効に活用する。

○指標

奥日光の清流保全

1) 奥日光環境保全事業の推進、奥日光清流清湖保全協議会活動への支援

指標名		現状値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終年度
1.コカナダモの除去等による水質浄化対策(機械刈取り)		3 日	4	4				拡大検討
2.奥日光第2期計画目標	湯ノ湖	2.4 COD	2.1					2.0
		0.41 窒素量	0.29					0.4
		0.022 有機リ	0.016					0.02
	湯川	2.7 透明度m	3.1					3.6
		1.2 BOD	1.0					1.0
	中禅寺湖	1.9 COD	1.1					1.6
		0.007 有機リ	0.006					0.005
	8.0 透明度m	8.7					10.0	

BOD: 微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素量  
COD: 薬品を使って測定する消費酸素量

県の公開時期の都合により、現時点では公表できません。

注1)

良好な水環境の保全

2) 公共水域の水質の環境保全

指標名	現状値 (単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.公共水域の水質の環境基準達成状況	達成	維持	維持				達成・維持

3) 生活排水対策の推進

指標名	現状値 (単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終年度
1.生活排水普及率	74.4 %	81	82				77
2.公共下水道水洗化率	87.8 %	93	93				93
3.合併浄化槽の設置基数	2,729 基	3,583	3,709				4,340

注1)

水の交流づくり(水を守る活動等流域の交流づくり)

4) 水を守るボランティア活動の推進

指標名	現状値 (単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.湧水ボランティア数	26 人	37	33				50
2.水環境保全活動実施回数	10 回	14	15				30

豊かな水資源の活用

5) 豊かな水資源の活用

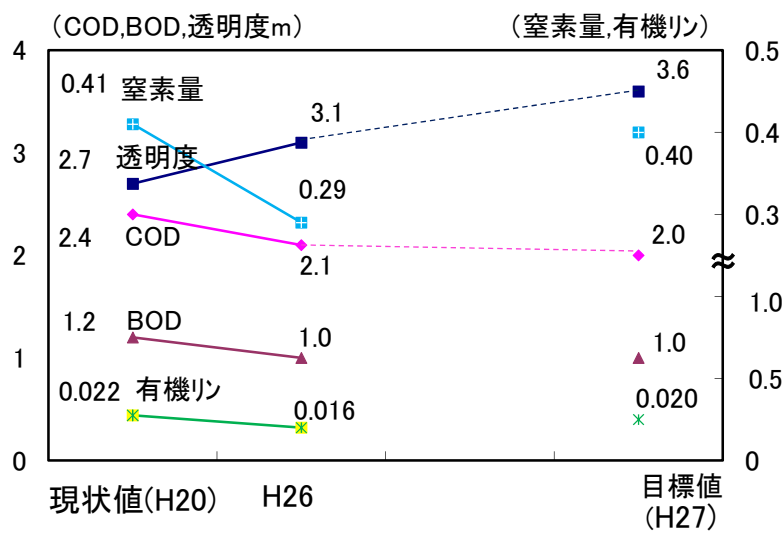
指標名	現状値 (単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.おいしい水(水道水)	%	100	注2) 90				全水道で基準達成
2.アクアスポットの整備	29 箇所	30	30				39
3.日光の水百選(水資源再発見)							H24選定(114風景)

注1) 平成 27 年度を目安とした目標値です。

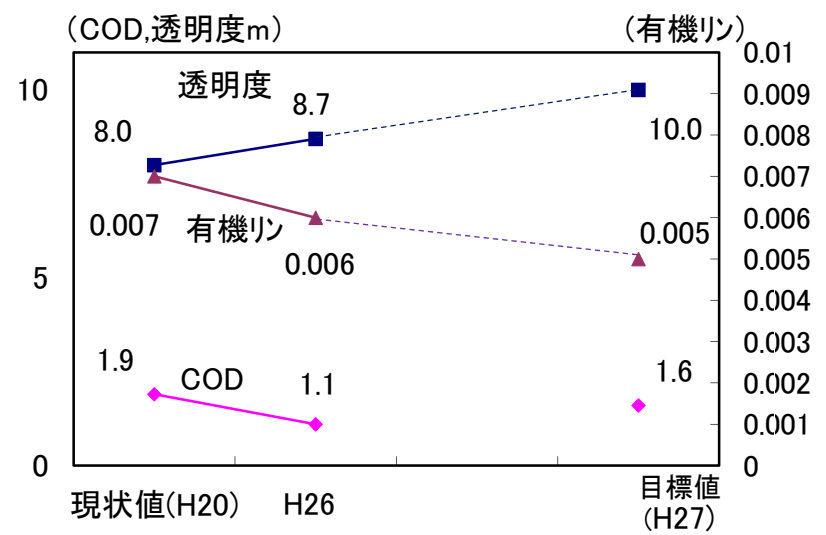
注2) 平成 27 年 9 月の関東東北豪雨時の原水濁度上昇時の対応として、塩素注入量を増加させたため、残留塩素の基準値超過によります。



【指標名】1-2-1. 奥日光第2期計画目標（湯ノ湖、湯川）



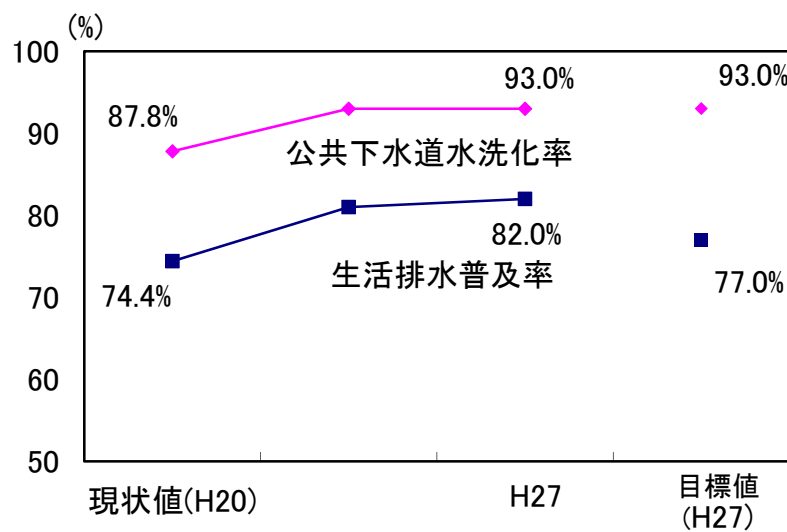
【指標名】1-2-2. 奥日光第2期計画目標（中禅寺湖）



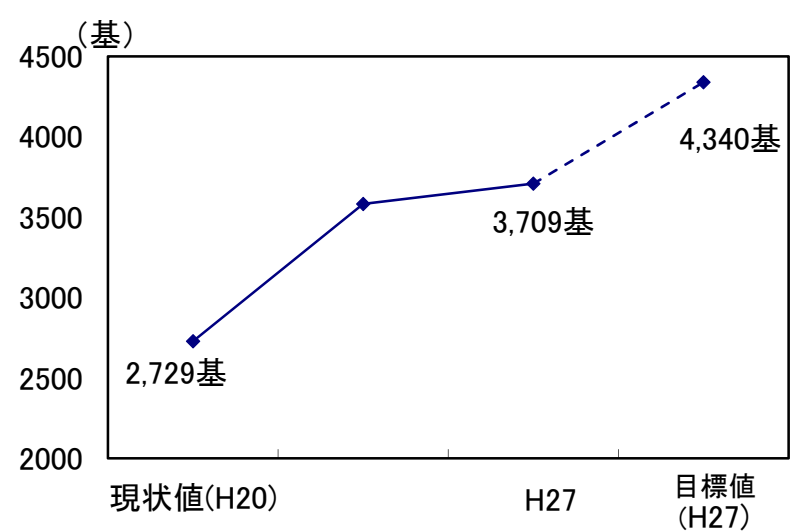
BOD：微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素量、COD：薬品を使って測定する消費酸素量

【指標名】3-1. 生活排水普及率

3-2. 公共下水道水洗化率

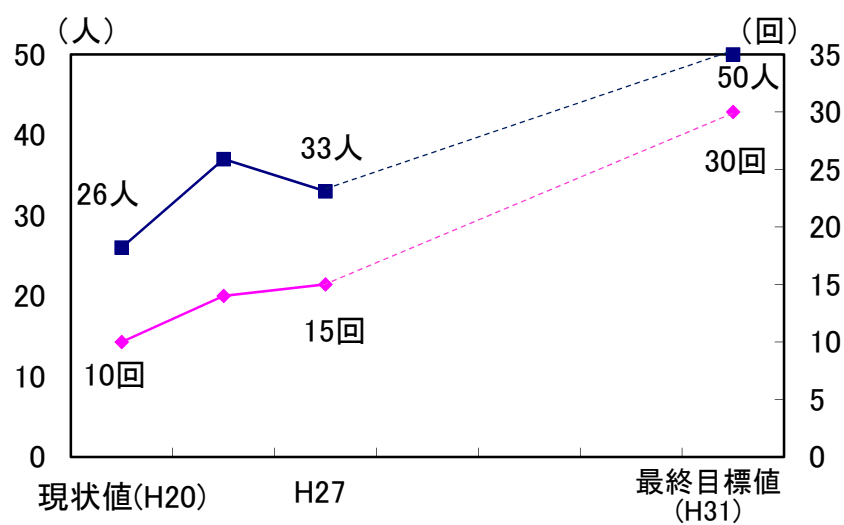


【指標名】3-3. 合併浄化槽の設置基数



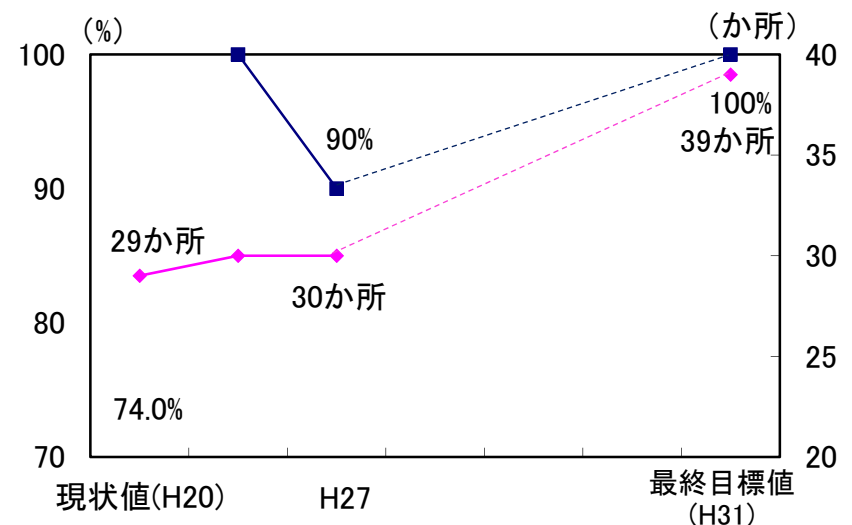
【指標名】4-1. 湧水ボランティア数(人)

4-2. 水環境保全活動実施回数(回)



【指標名】5-1. おいしい水(水道水)(%)

5-2. アクアスポットの整備(箇所)



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

奥日光の清流保全や生活排水対策の指標はおおむね良好です。「3-1. 生活排水普及率」「3-2. 公共下水道水洗化率」は、最終目標値を達成しました。

○プロジェクト項目別実施状況  
〔セカンドステップ〕

No	項目	進捗及び平成 27 年度実施内容				
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
2201	奥日光清流清湖保全協議会・湯ノ湖中禅寺湖をきれいにする会活動への支援	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		奥日光清流清湖保全協議会の運営に参画し財政的支援を行うとともに、同協議会の事業である「湯ノ湖水草コカナダモ人力刈取及び湖畔清掃」「水環境学習会（中禅寺湖湖上学習会）」「奥日光環境学習推進事業（奥日光水環境保全セミナー）」、「奥日光清流清湖フォトコンテスト」等に対して支援しました。湯ノ湖中禅寺湖をきれいにする会及び奥日光水の会についても、それぞれの団体が実施した湖沼水質保全に係る啓発事業や水質調査、清掃活動等に対して支援しました。				
2202	コカナダモの機械刈取りの推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		県と市の共同事業である 5 日間のコカナダモ機械刈取りに加えて、市単独事業として、コカナダモの流下防止対策を 4 月から 3 月まで行いました。				
2203	奥日光水域の水質改善対策の推進、水質浄化	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		県・関係機関と連携し、地元を交え水環境保全事業に取り組んでいる中で、水質の変化と原因究明に努めるとともに随時協議し対応をしているところです。				
2204	事業者排水対策の推進（排水調査・環境保全協定等）	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		市と環境保全協定を締結している工場や事業場から公共用水域に排出される水を定期的に分析し、公共用水域及び地下水の水質汚濁の防止を図ることにより、市民の健康を保護するとともに、生活環境の保全を図っています。				
2205	生活排水対策の推進（下水道整備・水洗化の促進・合併処理浄化槽の整備）	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		下水道管渠施設整備を推進することにより、供用開始区域の拡大を図るとともに、供用開始済区域内における下水道未接続世帯への戸別訪問による啓発活動を実施しています。 合併処理浄化槽設置の促進については、下水道事業計画区域外における設置費補助事業を引き続き実施するほか、補助制度の周知、水環境保全のための合併処理浄化槽への転換維持管理の重要性の啓発を市広報掲載、ダイレクトメールの発送などにより実施しました。 また、下水道と浄化槽による生活排水処理人口の増加を図るため、平成 24 年度より開始した単独処理浄化槽撤去費補助制度を引き続き実施しました。				

No	項目	進捗及び平成 27 年度実施内容				
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
2206	多面的機能支払交付金事業の推進 (平成 26 年度より「農地・水・保 全管理事業の推進」から事業名称 を変更)	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		農地・農業用水路等資源の基礎的な保全管理活動、施設の軽微な補修や植栽による景観形成等の資源の質的向上を図る共同活動、また、老朽化が進む農地周りの施設の長寿命化のための活動を行う、市で認定した団体に支援を行っています。平成 27 年度は、43 団体が実施しました。				
2207	市民参加の水生生物調査の実施	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		地域における生物多様性保全を推進するため、地元団体が主体となって河川や水路等に生息・生育する動植物の調査を行なっています。平成 27 年度は、31 団体で子ども会等も含め市民が参加し、アドバイザーの指導の下に実施しました。				
2208	湧水ボランティアによる水環境調 査	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		平成 27 年度は 33 人の方が調査を実施しました。調査回数は年 4 回で、湧水の状況や簡易な水質検査キットによる水質調査も併せて実施しています。				
2209	日光の水百選の選定 (再発見)	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		完了				
		市内の全 114 風景を選定した「日光水のある風景百選」ブックレット (80 ページ・オールカラー刷) を公共施設や観光案内施設等で無料配布しました。				
2210	水の環境学習交流プログラムづく り	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		水百選の環境を保全するとともに、環境をテーマとしたエコツーリズム等への利活用を図ります。				
2211	日光のおいしい水の普及・啓発	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		平成 27 年 2 月に「日光の名水」を日光ブランド食分野 (特選日光ブランド) に認定し、市ホームページ等へ掲載しました。平成 27 年度においては、日光ブランド食分野 PR 用パンフレット「あじわう日光」を 20,000 部作成しました。				
2212	水道水の水質検査の公表、水道水 のおいしい水基準の達成	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		平成 20 年度より水質検査の公表を開始し、平成 22 年度からは水質検査計画及び水質検査結果を市ホームページ等で公表しています。 水質検査を実施している 52 か所の給水栓はいずれも水質基準に適合しています。				

(3) 資源の循環プロジェクト ごみ減量の推進 ~3Rによる資源が循環するまちづくりに向けて~

プロジェクトの目標

環境美化意識を高めて清潔な環境を維持するとともに、ごみの減量化と再生利用を進め、ごみゼロを目指す資源循環型社会をつくる。

○指標

3Rの推進(行政の取り組み)

1)ごみの減量化

指標名	現状値	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.1人1日当たりのごみの排出量	1,177	g/人/日	1,175	1,177				1,060
2.年間ごみ排出量	39,908	t	37,500	37,190				32,422
3.生ごみ処理機器設置補助数	104	件(累計)	222	229				650

2)リサイクルの推進

指標名	現状値	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.クリーンセンター等における再生利用率	14.0	%	17.0	16.2				24.0
2.クリーンセンター等における最終処分率	13.1	%	5.4	5.1				5.0

3Rのしくみづくり(市民・事業者の取り組み)

3)エコショップの普及

指標名	現状値	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.エコショップ認定の普及	0	店	9	13				50
2.資源物回収団体活動	50	団体	64	62				100

環境交流都市 日光クリーン大作戦

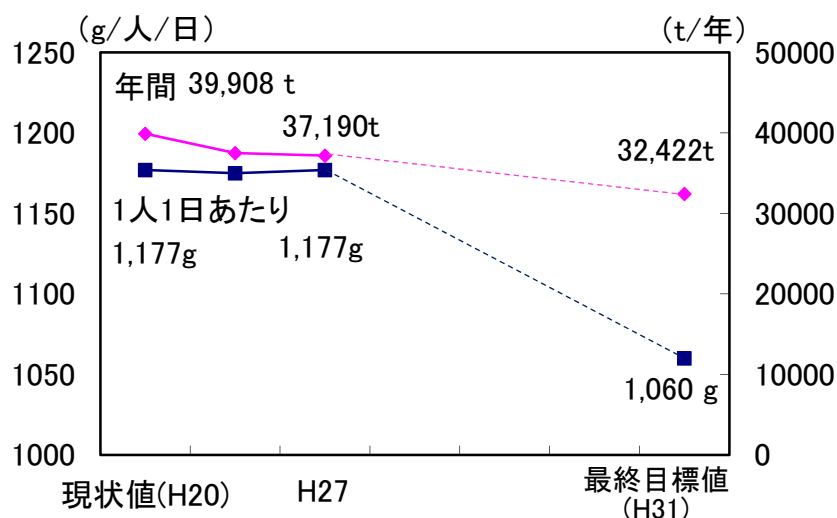
4)全市クリーン大作戦

指標名	現状値	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.参加団体数・参加者数	167	団体	333	357				250
	19,444	人	32,166	34,111				30,000

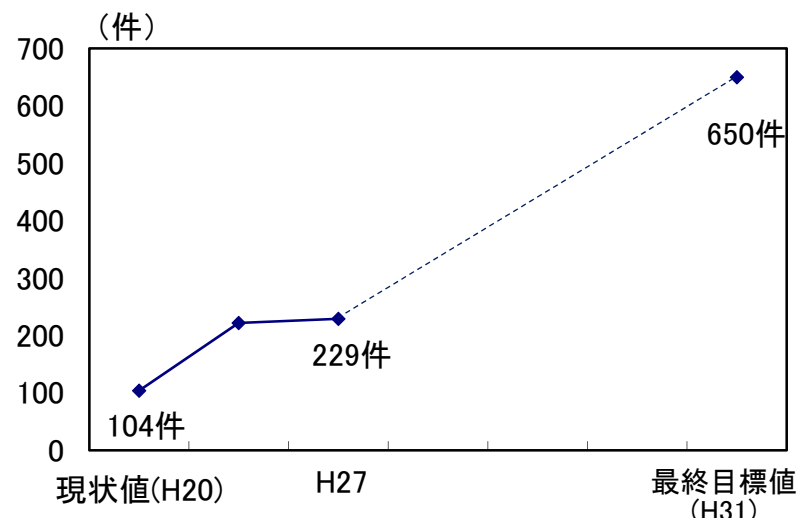
5)クリーンパートナー支援

指標名	現状値	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.クリーンパートナー団体数	29	団体	43	44				43

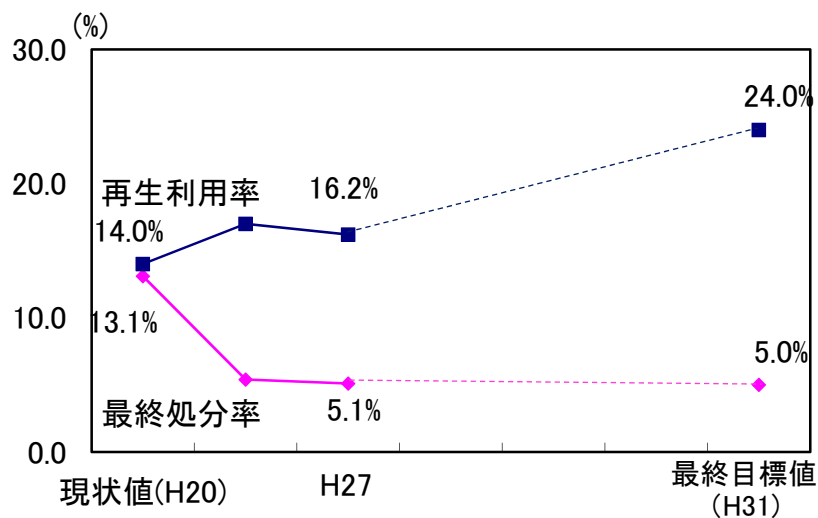
【指標名】 1-1. 1人1日あたりのごみの排出量 (g/人/日)  
1-2. 年間ごみ排出量 (t/年)



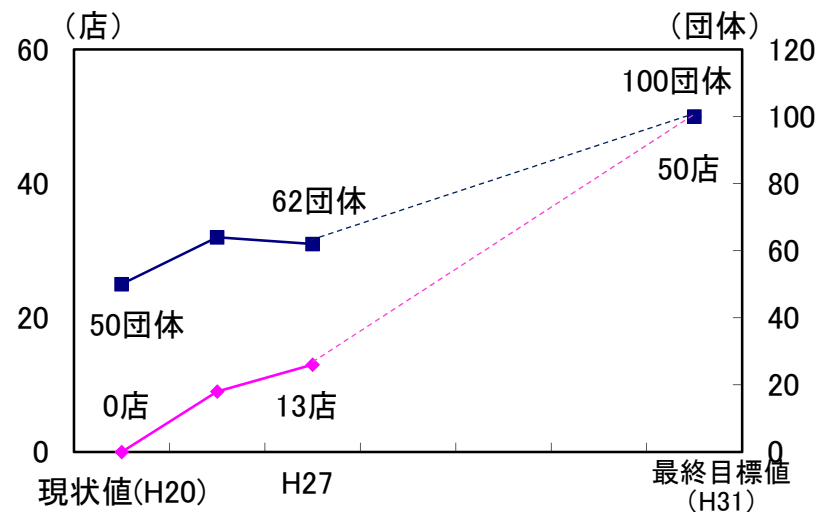
【指標名】 1-3. 生ごみ処理機器設置補助数



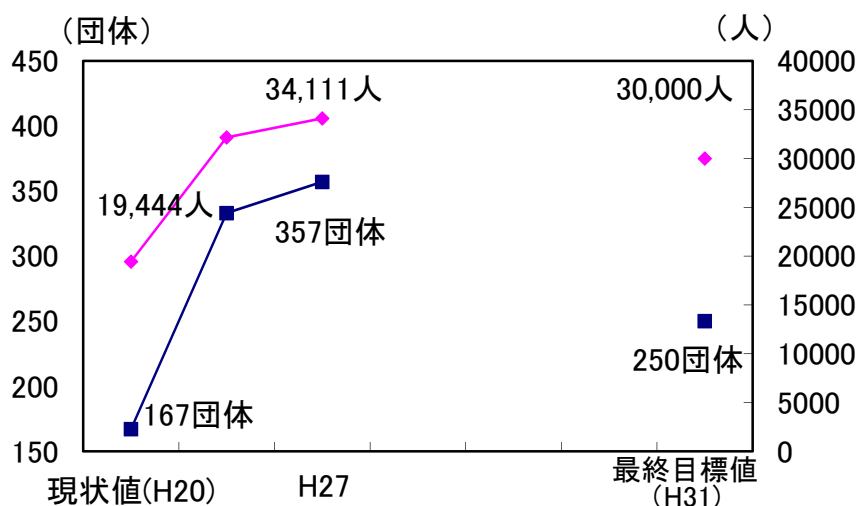
【指標名】 2-1. クリーンセンター等における再生利用率  
2-2. クリーンセンター等における最終処分率



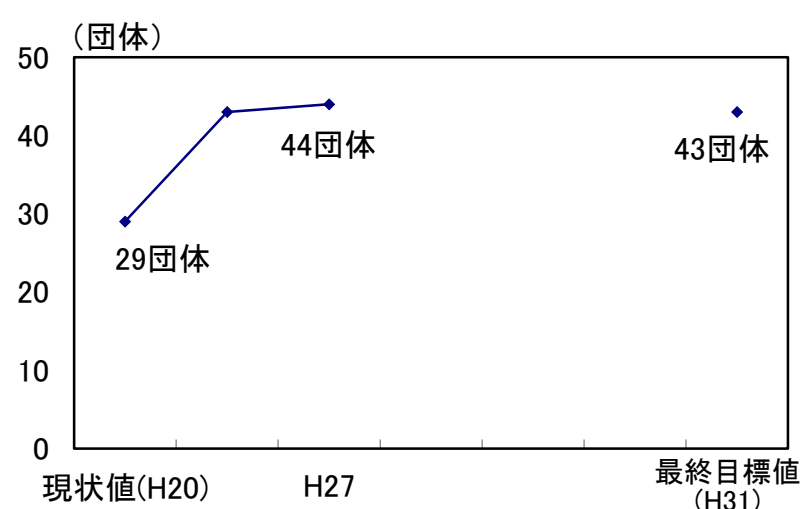
【指標名】 3-1. エコショップ認定の普及(店)  
3-2. 資源物回収団体活動(団体)



【指標名】 4-1. 全市クリーン大作戦参加団体数・参加者数



【指標名】 5-1. クリーンパートナー団体数



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

「4-1. 全市クリーン大作戦参加団体数・参加者数」「5-1. クリーンパートナー団体数」の指標が良好です。一方、次の指標が低い数値となっています。

- ・「1-1. 1人1日あたりのごみの排出量」「1-2. 年間ごみ排出量」

平成27年度は前年度に比べてごみ排出量が微増し、最終目標値とは大きな開きがあります。継続的に減らしていくために、家庭だけでなく、事業者からの事業系ごみの減量についても、呼びかけ等を検討していきます。

- ・「1-3. 生ごみ処理機器設置補助数」

最終目標値とは大きな開きがありますが、毎年度着実に設置が進んでいます。環境広報紙「環境にっこう」などを利用し、引き続き周知に努めます。

- ・「2-1. クリーンセンター等における再生利用率」

前年度と比べて、再生利用率が前年度より減少しました。最終目標値に近づけるため、ごみの減量とリサイクルについて一層周知し、再生利用率の向上に努めます。

- ・「3-1. エコショップ認定の普及」

平成26年1月から申請の受付を開始し、平成27年度にはエコ・オフィス3店舗、エコ・ショップ1店舗の合計4店舗が認定を受けました。引き続き広報紙とホームページを活用することで制度の周知を行い、認定店の増加を図ります。



・「3-2. 資源物回収団体活動」

前年度より減少し、最終目標値と開きがあります。引き続き、各自治会等へ制度について説明を行うなどにより、登録団体の増加に努めます。

○プロジェクト項目別実施状況

〔セカンドステップ〕

No	項目	進捗及び平成 27 年度実施内容				
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
3201	ごみ減量と再生利用の推進（ごみゼロ社会の実現）	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		検討中				
<p>ごみの減量化・資源化のインセンティブ（動機付け）として有効な手段のひとつとされる家庭ごみ有料化の導入について、基本的な考え方を示し、平成 30 年 4 月導入に向けて検討に入りました。また、事業系ごみ処理手数料の改定についても同時期の改定の検討に入りました。</p>						
3202	ごみ分別の徹底（紙類の 4 分別など）	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
<p>紙類分別を徹底することで、1 人 1 日当たりのごみ量減少と再生利用率の向上が図れることについて、平成 27 年度においても、環境広報紙「環境にっこう」による周知を行いました。1 人 1 日当たりのごみ量実績では前年と比減して減少する結果となりましたが、人口減による排出量の減少が影響していると考えられます。</p> <p>引き続き広報紙などによる周知を行いながら、今後は、事業所等への周知についても検討を進めます。</p>						
3203	生ごみの水切り徹底	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
<p>ごみ排出量を減少させるには、生ごみの水切りは非常に有効であるため、環境広報紙「環境にっこう」で、生ごみ処理機器設置費補助金制度の紹介記事とあわせて周知しました。今後も周知啓発に努めます。</p>						
3204	マイバッグ運動の推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
<p>環境美化委員による活動と合わせて、ショッピングセンターの店頭において、マイバックキャンペーンを実施し、マイバッグの利用を呼びかけました（計 2 回）。</p>						
3205	資源物回収団体の普及	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
<p>資源物回収実施団体数の推移は、前年度から 2 団体減少して 62 団体となりましたが、平成 26 年度から報奨金の上限を撤廃したことも影響し、総回収量は増加しました。各地区自治会長会議での説明などを今後も継続して行い、登録団体数の増加を図ります。</p>						

No	項目	進捗及び平成 27 年度実施内容				
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
3206	生ごみ処理機器設置費補助の推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		<p>家庭用生ごみ処理機器設置費補助制度の推進のため、「環境にっこう」を利用し、制度の周知を行いました。</p> <p>今後も生ごみの水切り、減量化、再資源化の有効な手段として制度を周知し、生ごみの排出量の削減を図ります。</p>				
3207	容器包装プラスチックのリサイクル施設の検討	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		未着手				
		<p>平成 22 年度から稼働したクリーンセンターにおいて、熔融炉方式によるサーマル・リサイクルごみ発電を行っていることから、プラスチック類の分別・リサイクルの検討に至っていません。</p>				
3208	エコショップの普及・登録推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		<p>平成 26 年 4 月に第 1 号の認定店が決まり、平成 27 年度末までに 13 事業所を認定しました。「環境にっこう」で制度周知などを行い、今後も認定事業所の拡大を図ります。</p>				
3209	自主的な環境美化活動の取り組み	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		<p>市民の皆さんが美化活動（ごみ拾い等）を自主的に実施する際に、市の支援として、ごみ袋の提供やあらかじめ届け出をいただいたごみ収集場所からの回収を行ない、協働で環境美化活動に取り組んでいます。届け出をいただくことで、市が加入する全国市長会市民総合賠償補償保険も対象になります。</p>				
3210	美化コンクール等地域美化運動の推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		<p>環境省が実施している「3R 促進ポスターコンクール」及び栃木県が実施している「ごみの散乱防止と 3R を進めるためのポスターコンテスト」について、市内小中学校への周知・作品募集を行い、環境美化の啓発に努めています。</p>				
3211	クリーンパートナー制度の推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		<p>クリーンパートナーの登録募集を環境広報紙「環境にっこう」で行いました。新規で 2 団体の登録がありました。</p>				
3212	環境美化委員活動の活性化	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		<p>平成 27 年度は、全支部において支部会を開催し研修会を実施しました。また、ショッピングセンターでマイバック推進の啓発活動や、ごみ減量化に向けての研修会も開催しました。</p>				
3213	全市クリーン大作戦の推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		<p>全自治会に照会し、不法投棄された可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、処理困難ごみを対象に、6 月と 11 月に実施しました。前年度と比較すると参加団体、人数とも増加しました。今後も市民が参加しやすい方法などを検討しながら実施します。</p>				

No	項目	進捗及び平成 27 年度実施内容				
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
3214	ごみのポイ捨て禁止の普及・啓発	実施				
		<p>全市クリーン大作戦やその他の集団清掃により、ごみのポイ捨て防止等の環境意識の高揚を目指しているところです。また、ごみのポイ捨て防止のため、ごみ捨て禁止の看板貸し出しも行い、ポイ捨て防止に努めました。今後も、広報紙を利用した啓発等も行い、ごみのポイ捨て防止に努めます。</p>				

(4) 環境にっこの輪プロジェクト 環境学習・環境情報 ~豊かな環境交流があるまちづくりに向け~

プロジェクトの目標

環境教育・環境学習を推進し、環境情報を発信することで、一人ひとりの環境意識を高め、環境保全活動の輪を広げる。

○指標

環境教育・環境学習の推進

1) 環境学習機会の充実

指標名	現状値	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.日光環境学習センターの整備								H22年度整備
2.市民対象の環境学習会開催	26	回	46	41				50
3.『こどもエコクラブ』数	2	団体	3	4				5
4.環境学習センター来場者数	27,208	人	15,983	15,193				50,000

環境にっこの輪(情報交流)の推進

2) 市民による環境交流・環境学習事業の支援

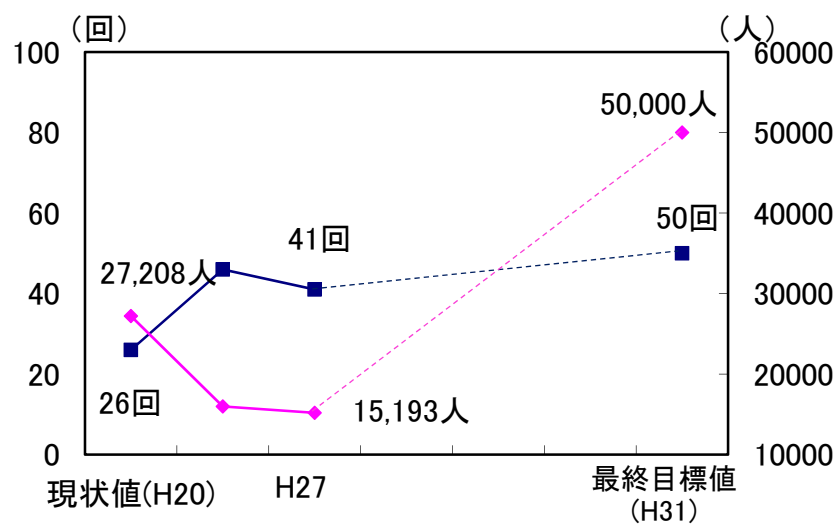
指標名	現状値	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.(仮称)日光環境会議の設立			未着手	未着手				設立

環境情報の整備

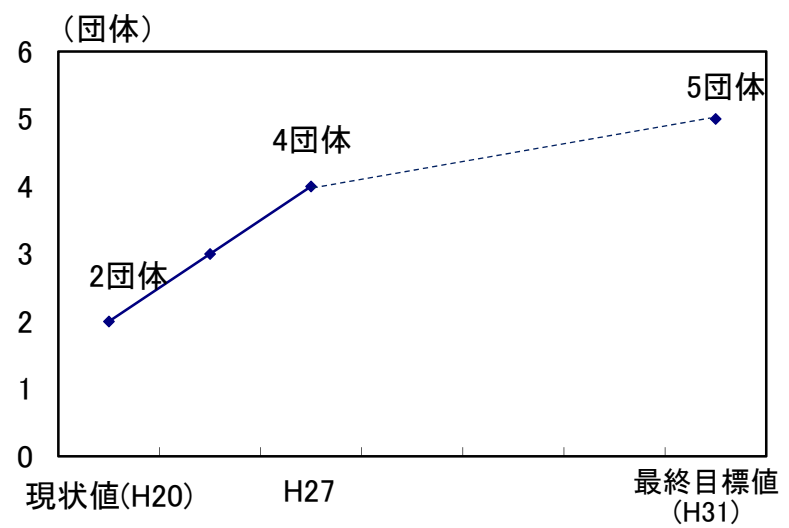
3) 「環境にっこ」等による情報提供

指標名	現状値	(単位)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終31年度
1.環境広報紙「環境にっこ」の発行		回	4	4				4
2.事業者向け環境メール発信事業	17	社	21	24				120

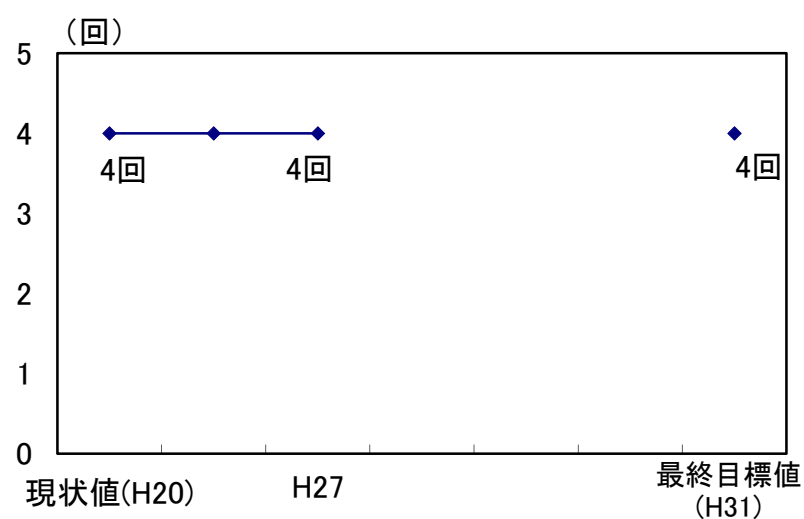
【指標名】 1-2. 市民対象の環境学習会開催 (回)  
1-4. 環境学習センター来場者数 (人)



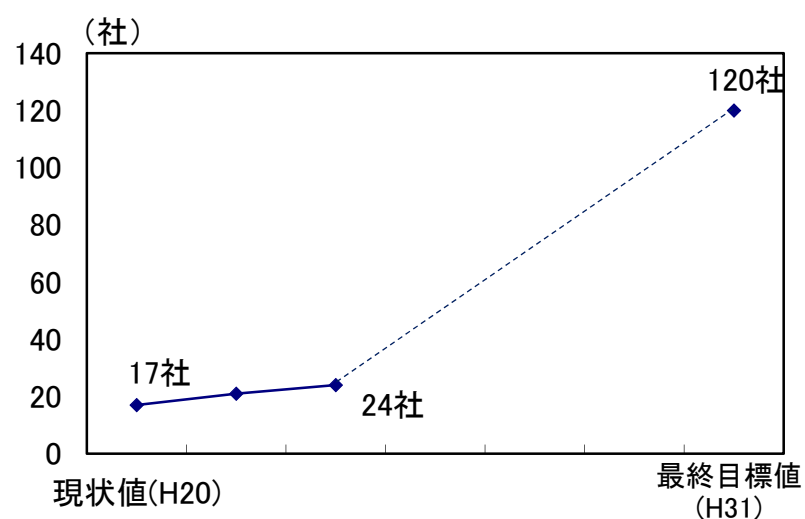
【指標名】 1-3. 『こどもエコクラブ』数



【指標名】3-1. 環境広報紙『環境にっこう』の発行



【指標名】3-2. 事業者向け環境メール発信事業



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

順調な指標と不調な指標が混在します。次の指標が低い数値となっています。

・「1-4. 環境学習センター来場者数」

来場者数は、日光・足尾の環境学習センターの合算で、9割以上を足尾環境学習センターが占めています。減少傾向にあるため、観光部門とともに今後もPRの強化に努めます。

・「3-2. 事業者向け環境メール発信事業」

登録事業者数がほぼ横ばいです。商工部門と連携して市内事業者に登録を呼びかけていきます。



○プロジェクト項目別実施状況  
〔セカンドステップ〕

No	項目	実施状況及び平成 27 年度実施内容				
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
4201	環境教育・環境学習の推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
ラムサール条約登録湿地「奥日光の湿原」が、登録 10 周年を迎えたことにより、同湿地を中心に環境学習を展開し、ワイズユース、環境保全等について理解を深める取組を行います。 また、学校教育と連携し、同湿地にて環境学習を行う中学校を支援しました。						
4202	環境学習教材・副読本の作成	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
ラムサール条約登録湿地「奥日光の湿原」学習ハンドブックを作成し、同湿地の環境学習を補助することができました。						
4203	学校間環境学習交流の検討	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
平成 26 年 11 月に今市工業高等学校と締結した学官連携協定に基づき、高校生が市内の小中学生に対して実施する環境教室（出前講座）のメニューを整備しました。						
4204	環境学習施設のネットワーク化	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		未着手				
市内の環境学習施設を訪れ、それぞれの地域特性を学習することで、日光市全体の環境について理解を深めることができる仕組みを創ります。						
4205	環境学習指導者の把握と活動支援	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
日光環境学習センターの解説を担当する自然解説員が環境学習指導者の中心的な存在となって、植物観察会や野鳥観察会等、市の環境学習事業と連携して活動していただいています。						
4206	『こどもエコクラブ』の普及	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
平成 28 年 3 月末現在で 4 団体 337 人が活動しています。市は地方事務局として、市内小中学校に普及啓発ポスターやリーフレットを配布、登録クラブに支援物品や関連資料を配布しています。						
4207	環境学習基本方針の推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		未着手				
法改正によって、「環境学習基本方針」に代わり「環境学習行動計画」の策定が努力義務となりました。						
4208	(仮称) 日光環境会議の事業実施	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		未着手				
現在、県内に環境会議を設置している市町は 7 市 1 町となっています。各団体の情報交換及び連携する場の提供については、法改正を含め取り巻く情勢の変化もあることから、日光環境会議にこだわらず様々な手法を視野に入れ、日光市に適したあり方を検討します。						

No	項目	進捗及び平成 27 年度実施内容				
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
4209	「環境にっこう」の発行	実施				
		<p>年 4 回発行した中で、平成 27 年度の主な掲載内容は次のとおりです。</p> <p>○エコドライブ ○うちエココンテスト ○学官連携の取組  ○奥日光の湿原・ラムサール条約特集  ○奥日光清流清湖フォトコンテスト ○小水力発電機設置  ○湧水ボランティア募集 ○野焼きの禁止 ○ごみ減量化  ○エコショップ認定制度 ○クリーンパートナー募集  ○全市クリーン大作戦 ○生ごみ処理機購入費補助 等</p>				
4210	事業者向け環境メール発信事業の推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		<p>平成 27 年度登録事業者数は、24 事業者となり、情報発信数は 21 回でした。商工部門と連携しながら登録をご案内するなど、登録数拡大に努め、発信情報の幅を広げていきます。</p>				
4211	学校向け環境メール発信事業の推進	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		<p>環境保全標語の依頼、環境保全の周知啓発を行っています。今後も機会をとらえて、各学校に環境情報を発信していきます。</p>				
4212	環境のホームページによる環境情報発信	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
		実施				
		<p>環境分野専門のページを設け、随時、最新の情報に更新しています。補助金などの申請書は、ホームページからダウンロードが可能です。</p>				

### 3 今後の取り組み

平成27年度から新たな段階に入ったセカンドステップにおいて、「未着手」となっている5項目について検討を進めます。

また、環境問題は、市民一人ひとりの意識の醸成が課題解決につながることから、できるだけ直接丁寧に呼びかけることを継続し、ご理解いただけるよう努めます。

以下、各プロジェクトについて、今後の強化ポイントをまとめました。

#### (1) 光の環プロジェクト

- ① 地球温暖化防止に対して、市民・事業者が積極的に取り組むことができるように、県や市民団体と協働して働きかけを行います。
- ② 目標値の達成に向け、住宅用太陽光発電設備への設置補助制度を継続します。
- ③ 公共施設を利用した再生可能エネルギーの活用を継続します。
- ④ EV・PHV等の利用を促進するとともに、エコドライブを推進し、温室効果ガス削減に取り組みます。
- ⑤ 再生可能エネルギーのうち特に小水力発電について、今市工業高等学校等との学産官連携により事業を実施するとともに、市民への普及啓発に努めます。

#### (2) 水の環プロジェクト

- ① 良好な水環境の保全を最優先課題とし、今後も公共用水域の水質が環境基準を維持できるよう、水質の監視を徹底します。
- ② 奥日光の源流地域の水質悪化は、下流域に大きな影響を与えるため、引き続き地元団体を支援し協力しながら、水質の浄化に取り組みます。
- ③ 小代地区の水田水路に生育する国内希少野生動植物種「シモツケコウホネ」について、水路等の環境や生育状況について専門家による調査を実施したうえで、県・地元と協力しながら環境保全に取り組みます。
- ④ 平成24年度に選定した「日光水のある風景百選」について、観光レクリエーション資源として活用し、広くPRに努めます。

#### (3) 資源の環プロジェクト

- ① 「環境にっこう」で生ごみの水きり・減量や、分別・資源化の呼びかけをするなど、ごみ減量を推進します。
- ② エコショップ認定制度は、平成26年度に要綱を策定し、参加店舗の募集を開始しました。認定店を増やしていくことで市民に身近な買い物の場面からエコ意識の浸透を図ります。
- ③ 住居周辺を清掃するクリーン大作戦は、普段特に環境美化を意識していない市民にとって、美化意識を持つきっかけとなる有効な事業です。住民同士の活動の輪も広がることから、引き続き全市をあげて重点的に実施します。

#### (4) 環境にっこの輪プロジェクト

- ① 教育委員会と連携し、日光みらい科（市内中学校対象）においてラムサール条約登録湿地「奥日光の湿原」環境学習を実施するほか、修学旅行生に向けた環境学習パンフレットを活用するなど、各種環境学習事業を充実していきます。
- ② 事業者向け環境メール発信や、ライトダウンキャンペーンの参加など、事業者の環境活動への呼びかけについては、商工部門と連携しながら、随時、情報の発信及び活動への理解と協力を依頼していきます。